慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	□山宏教授略歴 ; □山宏教授著作目録〔年代順〕
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	2011
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.84, No.2 (2011. 2) ,p.673- 682
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	□山宏教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-20110228-0673

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

蔭山宏教授略歴

一九六八年三月　慶應義塾大学経済学部卒業
一九六八年四月　一橋大学大学院社会学研究科修士課程入学
一九七〇年四月　同博士課程入学
一九七四年三月　同課程修了
一九七四年四月　一橋大学社会学部助手
一九七七年四月　慶應義塾大学法学部専任講師
一九八二年四月　同学部助教授
一九八七年四月　同学部教授
　この間、慶應義塾大学、青山学院大学、横浜国立大学で非常勤講師
一九八七年　法学博士（慶應義塾大学）

蔭山宏教授著作目録〔年代順〕

一九七一年
八月　「ドイツ・ピエティスムスにおける人間と社会（1）―ツィンツェンドルフに即して―」
　　『一橋論叢』（一橋大学）第六六巻第二号
一〇月　「ドイツ・ピエティスムスにおける人間と社会（2）―ツィンツェンドルフに即して―」
　　『一橋論叢』第六六巻第四号

一九七四年
一月　「ヴァイマール共和国の崩壊とタート派―危機克服の模索一九二九―一九三二―」
　　『季刊社会思想』（社会思想社）第三巻三・四合併号

一九七五年
六月　［翻訳］バラクラフ「虚像のヒトラー」
　　『みすず』第一八六号
一〇月　「「ナチス左派」の成立」
　　『一橋論叢』第七四巻第四号

一九七六年
六月　「ナチスの大衆政党への途―党内対立の問題―」
　　『一橋論叢』第七五巻第六号

七月　「戦後精神とウェーバー―ウェーバー思想受容の一側面―」　『知の考古学』（社会思想社）第八・九合併号

三月　「ワイマール文化の社会的危機」（平井正他共著『文化と文明の哲学』）　学文社

一九七七年

六月一三日　［書評］デューイ『ドイツ哲学と政治　ナチズムの思想的淵源』（木鐸社）　『週刊読書人』第一一八五号

九月　「資本主義の精神をめぐって」（安藤英治他共著『ウェーバー「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」』）　有斐閣

一〇月三一日　［書評］レーヴィット『ヤーコブ・ブルクハルト　歴史のなかの人間1』（みすず書房）　『週刊読書人』第一二〇四号

一九七八年

三月六日　［書評］上山安敏『ウェーバーとその社会』（ミネルヴァ書房）　『週刊読書人』第一二二一号

四月　「ルカーチと職業生活」　『塾生新聞』第一〇〇号

四月　「ワイマール精神史研究の前提―「保守革命」論研究①―」　『法学研究』（慶應義塾大学法学研究会）第五一巻第四号

一二月　［書評］シェーンボウム『ヒットラーの社会革命』（而立書房）　『三田学会雑誌』（慶應義塾大学経済学会）第七一巻六号

一二月一八日　［書評］ランシマン『マックス・ウェーバーの社会科学論』（法政大学出版局）　『週刊読書人』第一二六一号

一九七九年
六月　［紹介］ブーバー編『グスタフ・ランダウアー書簡集』　『塾』（慶應義塾）第九五号

一九八〇年
三月　「思想史の基本文献―政治思想史の方法によせて―」　『三色旗』（慶應義塾大学通信教育部）第三八四号
六月一六日　［書評］濱島朗『ウェーバーと社会主義』（有斐閣）　『週刊読書人』第一三三六号
九月八日　［書評］ラカー『ワイマル文化を生きた人びと』（ミネルヴァ書房）　『週刊読書人』第一三四七号

一九八一年
五月四日　［書評］生松敬三『二十世紀思想渉猟』（青土社）　『週刊読書人』第一三八〇号
六月一日　「ディートリヒと同時代」　『慶應義塾大学報』第一二二号
八月　「価値志向性の解体と現代」　『三色旗』第四〇一号
八月三一日　［書評］ケスラー『マックス・ウェーバー　その思想と全体像』（三一書房）　『週刊読書人』第一三九六号

一九八二年
二月　「「革命的ロマン主義」としての「保守革命」論」　『法学研究』第五五巻第二号
四月　「生活形式と政治思想―ドイツ市民層の歴史的転換―」
日本政治学会編『政治学と隣接諸科学の間―その交渉の現状と課題（年報政治学一九八〇年）』（岩波書店）

七月　「価値の攻撃性と共感について―マンとシュミットの所説を手がかりにして―」　『木鐸』（木鐸社）第四号
九月六日　［書評エッセイ］平井正『ベルリン　1928―1933破局と転換の時代』（せりか書房）　『週刊読書人』第一四四七号
一二月　「ワイマール文化の一断面1―等価性の世界の概念―」　『みすず』第二六八号

一九八三年
二月　「ワイマール文化の一断面2―等価性の世界の概念―」　『みすず』第二七〇号
三月　「国会図書館群像」　『三色旗』第四二〇号
三月二一日　［書評］ウェーバー『政治論集1・2』（みすず書房）　『週刊読書人』第一四七四号
六月　「〈遅れてきた〉世代」　『三色旗』第四二三号
九月五日　［書評］アブラモフスキー『マックス・ウェーバー入門　西欧の合理化過程を手引きとする世界史』（創文社）　『週刊読書人』第一四九七号
一一月一四日　［書評］柳父圀近『ウェーバーとトレルチ　宗教と支配についての試論』（みすず書房）　『週刊読書人』第一五〇七号

一九八四年
四月　［共訳］ハウ編『世紀末の診断一九八四年以後の世界』　みすず書房
五月　「都市文化状況としての〈一九二〇年代〉」　『国語通信』（筑摩書房）第二六五号

一九八五年
三月　「「思想の社会学」に向けて」　『三色旗』第四四四号
六月　「市民社会と社会主義―「革命的ロマン主義」との関連で―」　『法学研究』第五八巻六号

一九八六年
六月　著書『ワイマール文化とファシズム』　みすず書房
七月一〇日　「初老の学生」　『塾生新聞』第一九二号
一〇月　「ドイツの大衆歌謡と日本」　『本』（講談社）一〇月号
一二月　「新著余滴『ワイマール文化とファシズム』」　『三田評論』第八七六号

一九八七年
一月　「トーマス・マン『非政治的人間の考察』をめぐって」　『三色旗』第四六六号
三月三〇日　［書評］コルプ『ワイマル共和国史―研究の現状―』（刀水書房）　『週刊読書人』第一六七六号
四月　「都市論の二つの視点」　『三色旗』第四六九号

一九八八年
一月　「近代思想史の学び方について」　『三色旗』第四七八号
四月　共著『読書の現在　読書アンケート』　みすず書房
一二月　「ジンメルと〈一九二〇年代〉」　『法学研究』第六一巻一二号

一九八九年

一月九日　［書評エッセイ］イーグルトン『ワルター・ベンヤミン　革命的批評に向けて』（勁草書房）『週刊読書人』第一七六五号
六月　［書評］鈴木了二『非建築的考察』（筑摩書房）『法学研究』第六二巻六号
一〇月　［共訳］パクター『ワイマール・エチュード』みすず書房

一九九〇年
二月五日　［書評］リンゼ『ワイマル共和国の予言者たち　ヒトラーへの伏流』（ミネルヴァ書房）『週刊読書人』第一八一九号
二月一〇日　［書評］野田宣雄『教養市民層からナチズムへ―比較宗教社会史のこころみ―』（名古屋大学出版会）『週刊ポスト』（小学館）第二二巻第六号
三月　「ロマン主義の精神構造―シュミット『政治的ロマン主義』に寄せて―」『三田学会雑誌』第八二巻特別号Ⅱ

一九九一年
五月二五日　［書評］ハーフ『保守革命とモダニズム』（岩波書店）『図書新聞』第二〇五四号
五月三一日　［書評］三島憲一『戦後ドイツ　その知的歴史』（岩波書店）『週刊ポスト』第二三巻第二一号

一九九二年
五月二日　［書評］ベッテルハイム『フロイトのウィーン』（みすず書房）『図書新聞』第二一〇〇号
七月六日　［書評］田中浩『カール・シュミット　魔性の政治学』（未来社）『週刊読書人』第一九四一号
九月二六日　［書評］出口裕弘『古典の愛とエロス』（朝日新聞社）『図書新聞』第二一一九号

一九九三年
一〇月　「「理念」としての政治史を追う歴史学者　フリードリヒ・マイネッケ」『Mein Deutsch　基礎ドイツ語』（三修社）第四四巻第六号

一九九四年
二月一二日　「書評」ケスラー『ワイマル日記（上）』（冨山房）『図書新聞』第二一八五号
三月八日　［書評］平井正『ダダ／ナチ』全三巻（せりか書房）『産経新聞』

一九九五年
八月　「ヘッセと〈一九二〇年代の混沌〉」（酒井忠泰他編『知られざるヘルマン・ヘッセの世界』毎日新聞社）

一〇月二〇日　［書評］山本秀行『ナチズムの記憶　日常生活から見た第三帝国』（山川出版社）『週刊ポスト』第二七巻第三九号

一二月　「〈やさしい微笑み〉とキリスト教―「西欧文化とキリスト教」の一断面―」『三色旗』第五七三号

一九九六年
九月　「ドイツ印象主義の社会的側面―大都市経験と芸術―」『法学研究』第六九巻第九号
三月　「世紀転換期ベルリンの都市風景―「ミーツカゼルネ」と H. ツィレ―」（寺尾誠編『都市と文明』ミネルヴァ書房）

一九九八年

一〇月　「「植民都市」ベルリンの転変―〈ドイツと東方〉問題の一断面―」（共著『近代国家の再検討』）慶應義塾大学出版会

一九九九年

五月　「ナチズムとベルリン―ケーニヒ〈回想録〉への注釈―」（中村勝巳編『歴史のなかの現代―西洋・アジア・日本―』）ミネルヴァ書房

二〇〇二年

九月　「現代的都市経験の一断面　ベンヤミンと遊歩者」（共著『転換期の政治思想―二〇世紀からの問い―』）創文社

二〇〇四年

一月　「「学問の危機」と経験―西郷信綱『古典の影』に寄せて―」『法学研究』第七七巻一号

二〇〇五年

二月　「「博覧会」と「百貨店」の時代―一九世紀精神史の一断面―」『教養論叢』（慶應義塾大学）第一二三号

二〇〇七年

一二月　「ワイマール共和国における時間意識の変化」『法学研究』第八〇巻第一二号

二〇〇八年
一二月　「マンハイムのファシズム論」　『法学研究』第八一巻一二号
二〇一〇年
五月　「「五月病」さまざま」　『三色旗』第七四六号
一九八二年―二〇一一年各年度、雑誌『みすず』一月号、［読書アンケート］「今年印象に残った本」